

今日のひきこもり問題は哲学の貧困だ

10年程前の2007年度に私達は厚労省の委託事業「精神障害者および家族の相談員制度の効果的運用」をさせてもらった。その時「ひきこもり」という言葉を使わせてもらえなかった。しかしその後直ぐ、「ひきこもり地域支援センター」の構想が打ち上げられた。



その年まで私は群馬大学北軽井沢研修所にゆかりのある田辺元記念哲学会・「求真会」の代表幹事でもあった。その会の

お世話と委託事業でテンテコマイをした記憶がある。「ひきこもり問題」も今は一段落したと思っている私は政府の方針に重大な欠陥があることに気が出た。私が津山高専を退職する少し前頃から哲学系の教員の削減をして、退職した後の補充をしなくなっている。そのため哲学を勉強する人が減っている。

この間の9月14日に10年ぶりに北軽井沢研修所に行き、若い後継者の主催する「求真会」の勉強会に参加した。研修所は光を失いかげ、煤ボケ、大学も研修所の扱いに苦慮しているようだ。田辺哲学をどの様に評価してよいか迷っているようにも見える。

「哲学」とは知恵を愛することである。哲学系の教員を削減することは知恵を愛することをやめる方向に向き、人を蹴飛ばしてでも先んじる方向が益々強まり、ひきこもる人を多く作り出すことになる。ひきこもるヤツの方が悪いということで、そこには知恵を出し合うという配慮が段々希薄になってくる。これは正に哲学の貧困だ。

資本主義社会には自由があっても、平等がない。共産主義社会には平等があっても自由がない。フランス革命の時の標語<自由・平等・友愛>の自由と平等は並列ではなく、矛盾関係にある。その両者は友愛によって行信証せられる。そこに第3の道があり、人類の哲学があるという思想が田辺哲学にはある。私の言う第4極もそこに繋がる。

一億総活躍社会もその実現に向かうのであれば十分意味がある。それは正に田辺哲学の復活である。そんなことを想う今日この頃である。(川島)

ふれあいコンサートを育てる会の事

バリアフリーバンドという音楽グループがあります。

2年前に亡くなった「佐桑 豊」さんの所属されていて走れ車いすというCDもあります。昨年は津山市の中央公民館でコンサートが開かれましたのでご存じの方も多と思います。

私は前回の岡山国体の後の“障害者スポーツ全国大会”の前夜祭でバリアフリーバンドのコンサートを聴き涙したことを今も覚えています。佐桑さんの司会でした、今もボーカルで活躍しているOさんの澄んだ声、Mさんのやさしい歌声は今もだいすきです。

最近では、いろいろなグループが高齢化でメンバーが減り、逆に若い方の参加がないと聞きます。しかしこのグループは昨年も4人もメンバーが加わったと聞きました。素晴らしいことです、私はメンバーではありませんが時々お手伝いしながら楽しませてもらっています。10月21日の“ふれあい村”でも新曲も

含めて皆さんの演奏と歌声を聴く機会がありました。今年も「ふれあいコンサート」が楽しみです



ふれコンは「津山ふれあいコンサートを育てる会」の略称で、音楽の好きな人とボランティアの人が協力し合い、コンサートの企画から演奏まで手がける中で、音楽活動を通して、身障者と健常者、そして多くの地域の人との関わり、ふれあいを考えている団体です。

(Y.C)

11月11日(日)にぎわい市

皆様のご協力で今年も“やきそば”、“こんにやく”“野菜など販売予定です。

※ 11/10 準備 10:30~16:00

※ 11/11 当日 8:00~

(銀天街)

天井が鏡のように反射する素材でできたアーケードが特徴で、『銀の天井に輝く街』が名称の由来です。

